



～夢を育てる学校 自慢の学校～

国立二小だより

平成27年5月29日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「団結」した仲間とともにめざす「やさしい学校」

校長 小林 理人

「緑の舞台で 仲間と団結」

緑の校庭や体育館での子供たちの表情は真剣さを増し、校舎には応援団のエールの声や金管バンドの子供たちが演奏するファンファーレの音などが響いています。

来週末に予定されている運動会に向けての準備、練習が順調に進んでいます。

芝生の校庭になって初めての運動会ということで、二小運動会の伝統を守りつつ、芝生という環境を生かして新たな伝統をつくります。運動会での配慮事項につきましては[本日配布した文書「運動会のご案内」](#)に記載しました。準備や片付け等で皆様のお力をお借りする場面もあるかと思いますが、学校、地域、保護者が「団結」して、練習、準備に日々汗を流している子供たちにとって最高の舞台をつくりあげていきたいと考えております。

やさしい学校 「和顔愛語」

来週から6月、一学期の折り返しです。

「希望」の4月、「団結」の5月に取り組んだことやその成果を土台にして、6月は学習や様々な活動を通して一人一人の子供のよさが発揮できるようにし、集団としての成長をめざします。具体的には、人や物に思いやりや優しさをもってかかわることを意識し、やさしい学校生活をめざします。

そして、そのキーワードは「和顔愛語」です。

私がこれまで訪問した学校の中で、校長として学校づくりのモデル、目標としている学校があります。そのひとつが都内の特別支援学校です。

その校内には「日本一やさしい学校」という目標が掲げられ、校長室には校長先生が自ら書いた「和顔施」「言辞施」の言葉がありました。校長先生や先生方の表情や言葉から、その学校の雰囲気や教育に対する姿勢が伝わってきました。

「どんな個性をもった子供でも、本校を選んできてくれた子供たちを全面的に受け止め、みんな育てていこう」「何がなくても、どんな人でもできる、人の心が和らぐ表情や温かい言葉を大切にしよう」そして、「日本一やさしい学校をめざそう」そんな思いがあふれている学校でした。

小学生から高校生まで同じ敷地の中で学んでいる子供たちは、明るく穏かな雰囲気の中、自立という目標に向かって真剣な表情で課題に取り組んでいました。

この時感じた「こんな学校をつくりたい」という思いを教職員や子供たちに話し、「和顔愛語」の言葉にその思い込めて、学校生活の充実に向けて取り組んでまいります。

6月はふれあい月間

東京都では6月と11月をふれあい月間とし、豊かな心を育む取組を全都一斉に行っています。本校でも、この「和顔愛語」の気持ちを様々な場面で大切にするとともに、代表委員会の取組や読書旬間、道徳授業地区公開講座など、子供たちの創意を生かしながら5月に培った「団結」の力で豊かな心を育む教育活動を進めていきます。